

GMOフリーゾーンについて

GMOフリーゾーン運動のはじまり

今や世界中に広がっている「GMOフリーゾーン（遺伝子組み換え作物を拒否する地域）」は、スローフード発祥の地として有名なイタリア・トスカーナ地方のワイン農家によって1999年に始まりました。その後、2002年に環境団体「地球の友」がイギリスでキャンペーンを立ち上げたのをきっかけにヨーロッパだけでなく、北米やアジア、オセアニア地域にも広がっています。

欧州のGMOフリーゾーン宣言は、イタリアで全土の8割、フランスで1250を超える自治体、オーストリアやポーランドで全州政府、ギリシャで地方政府すべてが行うなど、拡大の一途をたどっており、2003年以来、ほぼ1年に1回、GMOフリーゾーン欧州会議を開いています。

日本のGMOフリーゾーン運動

日本でGMOフリーゾーン運動が本格的に始まったのは2005年。農薬空中散布に反対し、環境に配慮したコメ作りを行っていた滋賀県高島市の農家が同年1月、圃場に畳3畳大の看板を立て、GMOフリーゾーン宣言をしました。翌2006年3月に第1回GMOフリーゾーン全国交流集会を高島市で開催した後、1年に1度のペースで交流集会を開き、運動の拡大をはかっています。

第1回集会時に4,700ヘクタールだったGMOフリーゾーン宣言面積は2020年に10万ヘクタールを突破しました。自治体による宣言が主体の欧米と異なり、日本のGMOフリーゾーン宣言は農家や消費者が個々に行っているため、面積拡大のスピードは決して速くありませんが、個人による理解で進められる草の根運動の意義は大きいといえるでしょう。ゲノム編集作物・魚類などが出てきた今、ゲノム編集も含めた遺伝子操作に反対する運動として、ますます意義が大きくなっています。

遺伝子組み換え作物は植えない、売らない、買わないことを宣言するGMOフリーゾーン運動は、自然と共生しながら多様な種や農法によって農業を営み、自然と共生する人間の暮らしを守る運動です。それは、いのちを守り育む人たちの連帯運動と言い換えることもできます。

先祖から受け継いだ暮らしと自然を守り、それを子どもたちの未来に引き継ぐ者としての責任を果たそうとするGMOフリーゾーン運動は今後ますます重要になってきます。

